

## 研究・調査報告書

分類番号	報告書番号	担当
C-142	23-328	慶應義塾大学 加藤眞三
題名 (原題/訳)		
Effects of dulaglutide on alcohol consumption during smoking cessation. 禁煙中のアルコール消費量に対するデュラグルチドの効果		
執筆者		
Probst L(1)(2), Monnerat S(1)(2), Vogt DR(2), Lengsfeld S(1)(2), Burkard T(3)(4), Meienberg A(3)(4)		
掲載誌		
JCI Insight. 2023 Nov 22;8(22):e170419. doi: 10.1172/jci.insight.170419.		
キーワード	PMID	
アルコール使用障害、グルカゴン様ペプチド-1 (GLP-1) 作動薬、デュラグルチド	37991022	
要旨		
<p><b>背景：</b> アルコール使用障害は世界的な健康に悪影響を及ぼしており、新たな治療目標が必要とされている。前臨床試験では、グルカゴン様ペプチド-1 (GLP-1) 作動薬が、げっ歯類および非ヒト霊長類における依存症関連行動に減弱効果を示すことが示されている。一部の試験では、ヒトにおける報酬プロセスに対する GLP-1 作動性の効果が示されているが、臨床試験の結果はまだ結論が出ていない。</p>		
<p><b>方法：</b> これは、禁煙治療薬としての GLP-1 作動薬デュラグルチドを評価する二重盲検、無作為化、プラセボ対照試験のあらかじめ定められた二次分析である。主な目的は、デュラグルチドによる 12 週間の治療後のアルコール消費量の差をプラセボと比較して評価することであった。多変量一般化線形モデルを用いて、デュラグルチドのアルコール消費量への影響を分析した。</p>		
<p><b>結果：</b> 一次解析では、ベースラインでアルコール飲酒を報告し、12 週間の治療を完了したコホート (n = 255) の参加者 (n = 151、プラセボ n = 75、デュラグルチド n = 76) を対象とした。年齢の中央値は 42 歳 (四分位範囲 33~53 歳) で、61% (n=92) が女性であった。12 週目において、デュラグルチド投与群はプラセボ投与群よりも 29%少ない飲酒量であった (相対効果=0.71、95%CI 0.52-0.97、P=0.04)。アルコール消費量の変化は、12 週時点での喫煙状況とは関連していなかった。</p>		
<p><b>結論：</b> これらの結果は、デュラグルチドがヒトにおいてアルコール摂取量を減少させるという証拠を提供し、物質使用障害の治療における GLP-1 作動薬の使用を促進する文献の増加に貢献する。</p>		